

使用するオブジェクトを選択する

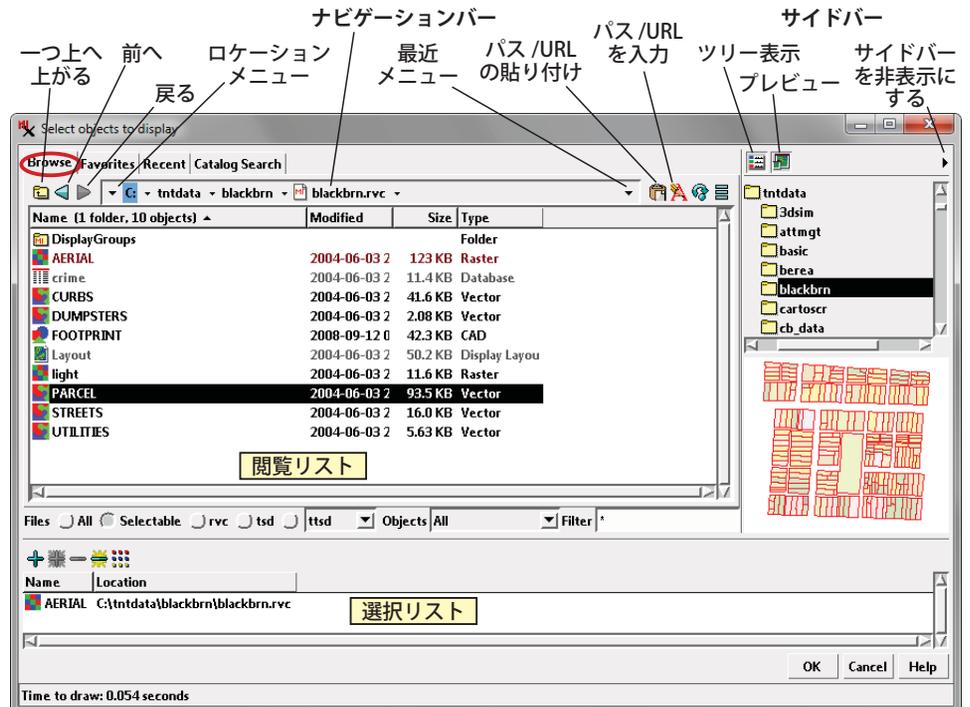
TNTgis では、〈オブジェクトの選択〉ウィンドウ (使用する機能によってウィンドウ名は異なります) を使用して地理空間データを選択し、表示や解析を行います。このウィンドウの上部にはタブパネルがいくつかあり、ファイルやオブジェクトを指定して、ウィンドウ下部の選択リストに追加する機能があります。このテクニカルガイドで解説のある通り、[閲覧] パネルでは、コンピュータやネットワークファイルシステムの中を直接移動してローカルデータを選択します。マイクロイメージがホストしている Web タイルセットなどのインターネットベースのデータや KML ファイル、WMS レイヤなどを選択することもできます。これにつ

いては、テクニカルガイド『システム: インターネットベースのマップや画像を使用する (System: Using Internet-based Maps and Images.)』を参照してください。よく使用する空間オブジェクトのリストを作成し、素早く選択できるように [お気に入り] パネルで管理することもできます。[最近] パネルには、直近で選択したファイルのリストが自動的に表示されます。[カタログ検索] パネルを使用すると、地理的位置による検索や、オブジェクト名、ファイル名、フォルダ名、あるいはファイルやオブジェクトの説明情報に含まれるテキストによる検索でローカルデータや Web データを検索することができます (テクニカルガイド『システム: ジオデータカタログの検索 (System: Searching Geodata Catalogs)』を参照)。

タブパネルの右側のサイドバーには、現在のフォルダパスの「ツリー表示」と、いずれかのタブパネルのリストでハイライト表示したオブジェクトの「プレビュー」を入れることができます。サイドバーの上部のアイコンボタンを使用すると、[ツリー表示] と [プレビュー] 枠のオン、オフやサイドバー全体の表示、非表示を切り替えることができます。

A. 閲覧パネル

[閲覧] タブの上部にあるナビゲーションバーには、コンピュータのドライブ内やディレクトリ内を手動で移動する機能があり、目的のファイルを見つけることができます。現在のディレクトリやファイル、プロジェクトファイルフォルダのコンテンツは、このナビゲーションバーの下のリストに表示されます。後述の「ファイルフィル



〔閲覧〕タブパネルを開いた状態の〈オブジェクトの選択〉ウィンドウ

とオブジェクトフィルタ」の項で解説のある通り、閲覧リストの下にある [ファイル]、[オブジェクト] フィルタを使用すると、表示されるファイルやオブジェクトのタイプを限定することができます。正しい場所に移動したら、閲覧リストから 1 つまたは複数のオブジェクトを選択し、[OK] を押します。複数のプロジェクトファイルやディレクトリからオブジェクトやファイルを選択するには、〈オブジェクトの選択〉ウィンドウの下部にある選択リストに各オブジェクトやファイルを追加してから次の場所に移動します。

ファイル操作

ナビゲーションバーには、現在のフォルダやファイルへのパスの構成要素が表示され、左からドライブ文字やボリューム名で始まり、右に向かってフォルダやサブフォルダが続きます。パスの構成要素の最後 (一番深い要素) には、名前の左側にアイコンがあり、そのアイコンでファイルかフォルダか、またはドライブかを識別しています。ナビゲーションバーとその下の閲覧リストを組み合わせると、目的の場所に移動できます。

閲覧リスト項目: 閲覧リストには、フォルダに含まれるすべてのサブフォルダとファイルの名前とアイコンが表示されます。フォルダやファイルのアイコンを左クリックするか、名前をダブルクリックすると、フォルダやファイル内の 1 つ下の階層に移動します。マイクロイメージのプロジェクトファイル内に移動することもできますし、TNTgis で直接使用できる形式のファイルに複数の空間オ

(次ページに続く)

プロジェクトが含まれている場合は、これらのファイル内にも移動できます。例としては、複数の画像バンドを含む TIFF や JP2 ファイル、複数のシェイプオブジェクトを含む ESRI ジオデータベースファイルがあります。コンテンツリストには、ファイルに含まれるすべてのオブジェクトの名前とアイコンが表示されます。

フォルダ名:現在のパスで任意の階層にジャンプするには、ナビゲーションバーのフォルダ名 (またはドライブ名 / ボリューム名) をクリックします。

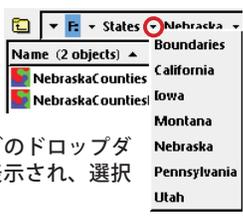
一つ上へ上がる:ナビゲーションバーの左側にある [一つ上へ上がる] アイコンを押すと、ディレクトリ階層を1つ上の階層に移動します。



「戻る」と「前へ」:ナビゲーションバーの左側にある [戻る] アイコンを押すと、最後に使用したフォルダに戻ることができます。[戻る] アイコンを押すと、[前へ] アイコンが有効になるため、最後に使用した一連のフォルダ順を前へ進めることもできます。

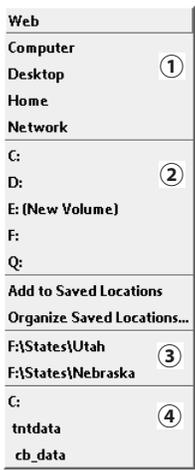


パスセパレータボタン:ナビゲーションバーには、パス内のドライブ名や各フォルダ名の右側に小さな矢印アイコンが現れます (下図参照)。このアイコンをクリックするとドロップダウンメニューが表示され、その階層の任意のサブフォルダを選択できます。選択するとサブフォルダが次の構成要素としてパスの右側に現れます。



「States」と名付けられたフォルダのドロップダウンメニュー。サブフォルダが表示され、選択できます。

ロケーションメニュー:[ロケーション] アイコン (ナビゲーションバーの左端の大きな黒い下向きの矢印) を押すと、ドロップダウンメニューが表示され、ハイレベルのナビゲーションオプションが提供されます。ロケーションメニューの上のセクション (下図の①) には、Web、コンピュータ、デスクトップ、ホーム、ネットワーク (Windows コンピュータの場合のみ) の選択肢があります。[Web] オプションでは、マイクロイメージがホストしている Web タイルセットや KML ファイルを含むインターネットベースのマップや画像レイヤ、およびカタログ化された Web マップサービス (WMS) や ArcIMS レイヤの階層リストが表示されます (テクニカルガイド『システム: インターネットベースのマップと画像を使用する (System: Using Internet-based Maps and Images)』を参照)。[コンピュータ] オプションでは、コンピュータ上でアクセス可能なすべてのドライブやボリュームが閲覧リストに表示されます。[デスクトップ] オプションからはデスクトップフォルダにジャンプし、[ホーム] オプションからはユーザフォルダにジャンプ



ンプします。[ネットワーク] オプションを使用すると、Windows ネットワークで使用可能な他のコンピュータにアクセスできます。

[ロケーション] メニューの②のセクションからは、コンピュータ上で使用可能なドライブやボリュームにジャンプできます。[ロケーション] メニューの③のセクションは、ロケーションメニューで [保存したロケーションに追加] オプションを使った場合に表示されます。このオプションを選択すると、現在のドライブや現在のディレクトリへのパスがロケーションメニューの「保存したロケーション」セクション (③) に追加され、よく使うディレクトリをメニューから直接選択することができるようになります。保存したロケーションがある場合には、ロケーションメニューに [保存したロケーションの整理] オプションが設けられます。このオプションを選択すると、ロケーションメニューから保存したロケーションを削除できるウィンドウが開きます。

図中のロケーションメニューの④のセクションには、現在のレベルより上のパスの各構成要素の選択肢があります。現在のレベルの上の階層が3つ未満の場合、このセクションは表示されません。

最近パスメニュー:[最近] アイコン (ナビゲーションバーの右端の大きい黒い矢印) を押すと、ドロップダウンメニューが表示され、メニューにはすべての処理で直近に使用したパスが表示されます (最大 20 件)。このメニューを使用すると最近使用したフォルダへ移動することができます。



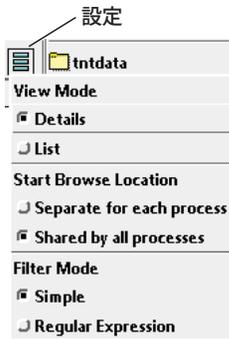
パスまたは URL の入力と貼り付け:[パス / URL を入力] アイコンを押すか、ナビゲーションバーのパス構成要素の最後尾の右側の空白部分を左クリックすると、ディレクトリパスや Web URL を手動で入力することができます。[パス / URL の貼り付け] アイコンを押すと、クリップボードからパスや URL をナビゲーションバーに貼り付けることもできます。後者のオプションは、[ジオマッシュアップの構築] 処理で Web ロケーションからタイルセットの TSD ファイルや KML ファイルを選択し、表示したり使用する場合には特に便利です (テクニカルガイド『ジオメディアの公開: オリジナルの Web レイヤをジオマッシュアップに追加する (Geomedia Publishing: Adding Custom Web Layers to Geomashups)』を参照)。



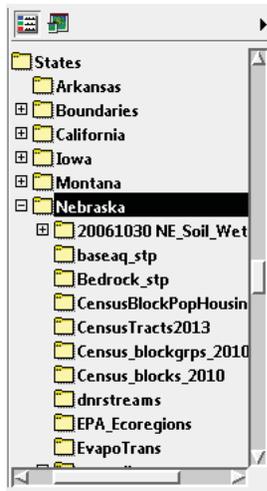
デフォルトの閲覧ロケーション:<オブジェクトの選択> ウィンドウは、前回選択した操作に応じて、その閲覧パスがデフォルトのロケーションに設定されて開きます。[設

(次ページに続く)

定]アイコンメニューの[最初に閲覧するロケーション]トグルを使用すると、デフォルトロケーションの設定方法を選択できます。[各処理で分ける]を選択すると、デフォルトの閲覧ロケーションは、現在の処理で最後に選択したロケーションが設定されます。[すべての処理で共有]を選択すると、すべての処理(入力または出力)で最後に選択したロケーションをデフォルトの閲覧ロケーションに設定します。このオプションを使用すると、たくさんの異なる処理を通して順番にデータを処理する場合、ファイルに移動する手順が簡単になります。このモードでは、現在の処理で最後に使用した選択ロケーションが、[最近]アイコンメニューの一番上に入れられます。



サイドバーリーコントロール: [サイドバーリー]コントロールには、他のファイル操作によって設定された現在のディレクトリレベルが自動的に表示されます。また、サイドバーリーを直接使用して、ドライブ内やフォルダ内を移動することもできます。垂直スクロールバーを使用すると、コンピュータ内で利用可能なすべてのドライブとそのメインレベルフォルダをスクロールできます。フォルダアイコンの横にある「+」アイコンは、サブフォルダが含まれていることを示しています。このアイコンを押すとフォルダが展開され、サブフォルダが表示されます(アイコンは「-」に変わります。「-」アイコンを押すとフォルダが折りたたまれます)フォルダを左クリックすると、そのフォルダが現在のフォルダに設定され、[閲覧]タブパネルの閲覧リストにフォルダのコンテンツが表示されます。



閲覧リスト

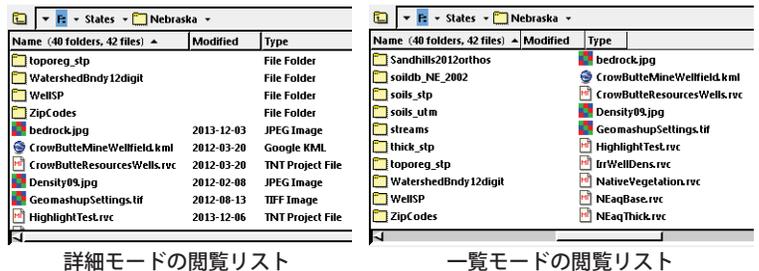
ナビゲーションバーの下にある閲覧リストには、現在のファイルやフォルダのコンテンツが表示されます。〈オブジェクトの選択〉ウィンドウが開いているときに現在のフォルダのコンテンツが変更された場合は、ナビゲーションバーの右の[更新]アイコンを押すと閲覧リストが更新できます。

オブジェクトやファイルのハイライト表示と選択: オブジェクトやファイルは何通りかの方法で閲覧リストから選択することができます。プロジェクトファイル(またはシェイプファイルやKMLファイルなどの単一オブジェクトの外部ファイル)のオブジェクトのアイコンを左クリックすると、そのオブジェクト

が選択リストに追加されます。名前をダブルクリックすることでも同じことが行われます。また、閲覧リスト内の1つまたは複数のオブジェクトやサポートされている外部ファイルをハイライト表示し、選択リストの[加える]アイコンを使用して選択することもできます。オブジェクトやファイル項目だけをハイライト表示するには、その項目を左クリックします。どの項目もハイライト表示されていない場合は、その項目を右クリックしてもハイライト表示されません。[シフト]キーを押しながら2つのリスト項目を左クリックすると、2つの項目とその間の項目がハイライト表示されます。[Ctrl]キーを押しながら左クリックすると、ハイライト表示していた項目のオンやオフを切り替えることができます。

プロジェクトファイル(または複数のオブジェクトを含む外部ファイル)の中に移動し、閲覧リスト内で1つまたは複数のオブジェクトをハイライト表示すると、〈オブジェクトの選択〉ダイアログの[OK]ボタンが有効になります。選択したいオブジェクトすべてがハイライト表示されている場合は、[OK]を押すだけで選択、現在の処理が行われます。最初に選択リストに追加する必要はありません。ただし、単一オブジェクトの外部ファイル(シェイプファイルなど)をハイライト表示しても、[OK]ボタンは有効になりません。これらのファイルは選択リストに追加する必要があります(後述の「選択リスト」の項を参照)。1回の操作で複数のプロジェクトファイルやフォルダからオブジェクトを選択したいという場合があります。その場合は、各オブジェクトを選択リストに追加してから次の場所に移動します。目的のオブジェクトすべてを選択リストに追加したら、[OK]を押します。

閲覧リストの表示モード: 閲覧リストの表示形式は、[設定]アイコンメニューの「表示モード」セクションのトグルオプションを使用して設定します。[詳細]オプション(デフォルト)では、閲覧リスト内に1行1項目で、各行の列に付加的情報が表示されます。現在のウィンドウサイズで表示されないリスト項目がある場合は、リストの右にあるスクロールバーでリストを垂直方向にスクロールできます。[一覧]オプションは、全リスト項目が(必要に応じて)複数列に配置されます。リストの枠内に収まらない複数の列がある場合、リストを水平方向にスクロールできます。これらのオプションは下図に示されています。

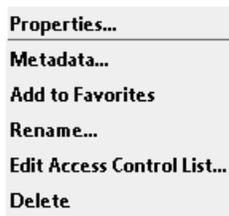


列と並び替え: 詳細モードの閲覧リストには、[名前]列のほか、[タイプ(ファイル)], [作成済み], [修正済み](それぞれ作成日と最終修正日)などオプションで選択できる(次ページに続く)

追加的な列が含まれます。列タイトルの間のセパレータをドラッグすると列幅の変更ができ、列タイトルをドラッグすると列の順序が変更できます。ファイル内の空間オブジェクトの名前(または単一オブジェクトの外部ファイルの名前)の上にマウскарソルを合わせると、位置と範囲情報の入ったデータティップと、オブジェクトの場所と範囲を示す図が表示されます。

列タイトルを左クリックすると、リストがその列の項目でアルファベット順に並び替えられます。同じ列タイトルをもう一度左クリックすると並び替えの順が逆になります。列タイトルを右クリックすると、「並び替え(小さい順)」、「並び替え(大きい順)」、「列幅を合わせる(列幅を最も長い項目に合わせて変更)」の選択肢をもつメニューが表示されます。メニュー最後の「カラムの選択」を選ぶと、〈カラムを選択〉ウィンドウが開き、閲覧リストに入れる情報を選択できます。[一覧]モードでは、列タイトルが表示されるため、これら非表示列の内容でリストを並び替えることができます。

右マウスボタンメニュー：閲覧リストで1つまたは複数の項目がハイライト表示された状態で右クリックすると、ハイライト表示された項目に対して操作を行ったり情報を表示するためのメニューが開きます。このメニューの選択肢は、ハイライト表示されている項目の数やタイプによって変わります。どの選択をした場合もメニューには「お気に入り」に追加(次の項参照)と「削除(オブジェクト、ファイル、フォルダをシステムから削除)」の選択肢が含まれます。1つのフォルダやファイル、オブジェクトのみがハイライト表示されている場合、「名前の変更」オプションがメニューに含まれます。空間ファイルやオブジェクトがハイライト表示されて



いる場合、「プロパティ」と「メタデータ」オプションが含まれます。[プロパティ]オプションを選択すると、ファイルやオブジェクトの詳細を表示するウィンドウが開き、ウィンドウにはパス、サイズ、作成日、修正日と共に、格納されているオブジェクトやサブオブジェクトのリストなどが表示されます。[メタデータ]オプションを選択すると、このファイルやオブジェクト用に作成されたメタデータを表示するウィンドウが開きます。マイクロイメージのプロジェクトファイルやオブジェクトの場合、メニューには「アクセスコントロールリストの編集」が含まれ、これを選択するとアクセスコントロールリストを編集するためのログインダイアログが開きます(テクニカルガイド『システム: アクセスコントロールリスト(System: Access Control Lists)』を参照)。

B. お気に入りパネル

よく使用する空間オブジェクトやファイルを「お気に入り」タブパネルのリストに追加することで、選択を簡単にすることができます(下図参照)。「閲覧」パネルのリストと同じ方法で、お気に入りリストのオブジェクトやファイルを選択したりハイライト表示することができます。お気に入りリストの項目をハイライト表示すると、「ツリー表示」枠(開いている場合)の中でフォルダがグレーにハイライト表示されます。ツリー表示の中で別のフォルダを選択すると、自動的にウィンドウが「閲覧」タブパネルに切り替わります。

オブジェクトやファイルは、「閲覧」タブと「最近」タブパネルの両方からお気に入りリストに追加できます。閲覧リストや最近リストで目的の項目をハイライト表示し、右クリックしてポップインメニューから「お気に入り」に追加」を選択します。

お気に入りリストには、各オブジェクト名やファイル名がデフォルトで表示されます。ただし、リスト項目に異なる名前を付けることができます。異なる名前を付けるにはリスト項目をハイライト表示し、「名前の変更」アイコンを押します。〈名前の変更〉ウィンドウが開くので、リスト項目の名前を編集できます。この操作が適用されるのはお気に入りリストのみです。オブジェクトやファイルの実際の名前は変更されません。リストから1つまたは複数の項目を削除するには、項目をハイライト表示して、「お気に入り」から削除」アイコンを押します。



C. 最近パネル

「最近」タブパネルには、すべての処理で直近に使用したオブジェクトが最大で20件まで表示されます。閲覧リストと同様に、最近リストからオブジェクトをハイライト



(次ページに続く)

表示して選択します。また、右マウスボタンメニューを使用して、最近リストの項目をお気に入りリストに追加することもできます。最近リストから [最近の選択リストから削除] アイコンを使用し、ハイライト表示された項目を削除することもできます。

D. カタログ検索パネル

[カタログ検索] パネルには、地理的位置による検索や、オブジェクト名、ファイル名、フォルダ名、あるいはファイルやオブジェクトの説明情報に含まれるテキストによる検索でローカルデータや Web データを検索するコントロールが提供されています。[カタログ検索] パネルの詳細については、テクニカルガイド『システム：ジオカタログの検索 (System: Searching Geodata Catalogs)』を参照してください。

E. プレビュー枠

サイドバーでオプションの [プレビュー] 枠には、任意のリストで現在ハイライト表示されている空間オブジェクト (Web タイルセット、KML ファイル、WMS レイヤなどの Web レイヤを含む) のサムネイルレンダリングが自動的に表示されます (テクニカルガイド『システム：ローカルおよびインターネットジオデータレイヤのプレビュー (System: Preview Local and Internet Geodata Layers)』を参照)。オブジェクトが大きすぎてサムネイルを即座に描画できない場合は、[プレビュー] 枠の中央に矢印アイコンが表示されます。このアイコンを押すとプレビューに描画されます。[プレビュー] 枠の表示、非表示を切り替えるには、サイドバー上部の [プレビュー] アイコンを使用します。

F. ファイルフィルタとオブジェクトフィルタ

[閲覧]、[お気に入り]、[最近]、[カタログ検索] パネルの下にある [ファイル] フィルタと [オブジェクト] フィルタを使用すると、ファイルタイプやオブジェクトタイプごと、かつファイル名やオブジェクト名によって、これらのリストに表示される項目を制限することができます。このフィルタ (下図) の内容は、選択する場面に応じて変わります。

[ファイル] フィルタでは、ラジオボタンを使ってオプションを選択します。[すべて] は現在のレベルのすべてのファイルを表示し、[選択可能] は現在の操作で選択できるファイルのみを表示します。フォルダレベルの [RVC] では、マイクロイメージのプロジェクトファイルのみを表示し、TNTgis で使用できる他の外部ファイルタイプをリストから除外します。最近使用したファイルタイプに対し、追加ファイルのラジオボタンが 1 つと、隣のメニュー

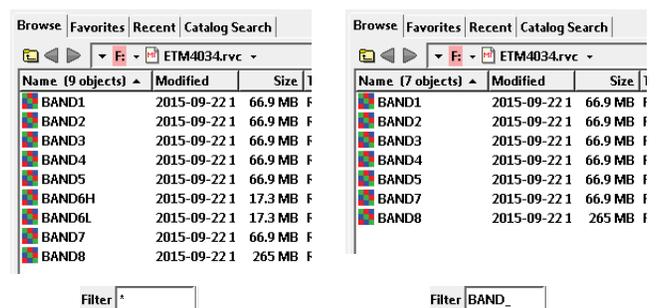


からの選択肢を適用するラジオボタンがさらに 1 つ提供され、これらの選択肢にはその時点での選択する状況に適した選択肢が提供されます。たとえば、〈表示マネージャ〉で [ラスタの追加] メニューから選択肢を選択すると、ファイルフィルタの選択肢には直接表示できるラスタファイルのタイプが表示されます。

[オブジェクト] メニューには、現在の選択する場面に適したオブジェクトタイプのリストが表示されます。プロジェクトファイルレベルで選択肢を 1 つ選択すると、リストは選択したオブジェクトタイプに限定されます。

[フィルタ] フィールドを使用すると、ファイルリストやオブジェクトリストをファイル名やオブジェクト名のパターン一致でフィルタします。[設定] メニューの [フィルタモード] セクションで、使用できるパターン一致のタイプを設定できます。選択肢は「シンプル」と「正規表現」です。「シンプル」モードでは、単純なワイルドカード文字の使用が可能です：「_」は 1 文字、「*」は任意の文字列に一致します (下図の例を参照)。[正規表現] オプションでは、効果的な正規表現構文を使用して、より複雑なテキストパターンを一致させることができます。正規表現に関しては、このテクニカルガイドの解説の域を超えています。使用可能な正規表現の詳細については、以下の Web ページを参照してください。

<http://userguide.icu-project.org/strings/regexp>



左図では、オブジェクトリストはフィルタされていません ([フィルタ] フィールドにはワイルドカード「*」が使われ、任意の文字列と一致)。右図では、オブジェクトリストに「BAND」+ 1 文字 (ワイルドカード「_」を使用) で成るオブジェクト名のみを表示するようにフィルタされています。

[ファイル] フィルタを使用してファイルタイプでフィルタする場合、[フィルタ] に入力する検索文字列はファイル名のみ作用し、ファイル拡張子と一致する必要はありません。

G. 選択リスト

複数のオブジェクトを選択させる処理では、〈オブジェクトの選択〉ウィンドウの下の部分に選択したオブジェクトのリストが表示されます。前項での解説の通り、数通りの方法でファイルコンテンツのリストからオブジェクトを (またはフォルダリストから単一オブジェクトの外部ファイルを) 選択リストに追加できます：

(次ページに続く)

- 閲覧リスト内のオブジェクトかファイルのアイコンを左クリックする
- 閲覧リスト内のオブジェクトかファイルの名前をダブルクリックする
- 閲覧リスト内の1つまたは複数のオブジェクトかファイルをハイライト表示し、[選択] 枠ツールバーの [加える] アイコンを押す
- [選択] 枠ツールバーの [すべてを追加] アイコンを押すと、閲覧リスト内のオブジェクトかファイルが (ハイライト表示されているか否かにかかわらず) すべて追加されます



現在の閲覧レベルがプロジェクトファイルや複数オブジェクトをもつ外部ファイルを含むフォルダの場合、ハイライト表示したファイルに [加える] アイコン (または [すべてを追加] アイコン) を使用すると、該当するファイルに含まれるすべてのオブジェクトが選択リストに追加されます。たとえば、閲覧リストで4バンドのJP2ファイル1つをハイライト表示し、[加える] アイコンを押すと、そのファイルに含まれている4つすべてのラスタオブジェ

クトが選択リストに追加されます。それに対して、ファイルのアイコンをクリックするか、ファイル名をダブルクリックするとファイルの中に移動し、個々のオブジェクトを選択することができます。



閲覧リストにフォルダが含まれているときに [すべてを追加] オプションを使用すると、<追加> ウィンドウが開き、フォルダの処理方法を指定することができます (右図を参照)。フォルダを除いて、現在のレベルのファイルのみを追加するオプション、フォルダ内のファイルを追加するが、サブフォルダは除くオプション、フォルダ内とそのサブフォルダ内の全ファイルを追加するオプションがあります。[ファイル名が一致] や [オブジェクト名が一致] フィールドの両方または一方に検索文字列を入力して、名前や拡張子で結果をフィルタすることができます。これらのフィールドには、[フィルタ] フィールドに設定したフィルタモードが使われます。

[選択] パネルツールバーの [表示ウィンドウ] アイコンメニューを使用すると、選択リストを [詳細] モードと [一覧] モードに切り替えることができます (閲覧リストの項を参照)。必要な場合、選択リストから項目を削除することもできます。1つのアイテムを削除するには、リスト内でその項目をハイライト表示し、[消去] アイコンを押します。[すべて消去] アイコンを押すと、リストからすべての項目が削除されます。

